

新任教育長あいさつ

「コロナ禍」のなかでの学校教育

教育長 高橋 勝

四月より、前任の佐藤 功 氏
のあとを引継ぎ、教育長を拝命し
ました、高橋 勝と申します。

当市では、釜石小学校と釜石
東中学校で校長を務めさせていた
だきました。その経験を活かし、
当市の子どものためのよりよい未来
を築くために、教育行政を推進し
てまいります。今後とも皆様のご
理解、ご支援をお願いします。

さて、昨年度三月、新型コロナウイルス
ウィルス感染症拡大防止のため臨
時休業措置が講じられました。令
和二年度は、四月から予定通りス
タートすることができましたが、
一学期は学校行事の延期や中止が
相次ぎました。

教育委員会では会議や研修会
をできるだけ中止し、教職員が子
どもたちに寄り添う時間の確保に
努めました。また、各学校には、
これまで以上に授業の充実を図
り、授業が楽しいという思いで子
どもたちが登校するよう努めてほ
しいと願いました。

新型コロナウイルス感染症感

染防止に関わり、学校教育にも大
きな影響が見られます。感染症防
止に配慮した学校生活、学校行事
の見直しや、保護者の参観の制限、
修学旅行も行先の変更や実施を見
送った学校もあります。郷土芸能
の伝承活動に苦慮している学校も
あります。

このような中でも子どもたちは
は、元気に過ごしており、幼稚園
や学校を訪問した際の子どものた
ちの笑顔に救われます。私たちが守
らなければならないのは、子ども
たちの「笑顔」だということを改
めて実感しています。保護者の皆
様、地域の皆様には、子どもたち
の笑顔を守るために、学校を支え
てくださるようお願いいたします。

終わりに、新型コロナウイルス
感染者等への誹謗中傷が問題と
なっています。私たち大人が子ど
もたちにそのような姿を見せるこ
とがあってはならないことです。
どうか、保護者の皆様、地域の皆
様のご理解とご協力をお願いしま
す。

高橋 勝さんが 教育長に就任

花輪 妙子さんが 教育委員に就任

佐藤 功教育長が3月31日を
もって退任となり、釜石市議会3
月定例会において、議会の承認を
得て、4月1日付けで市長が教育
長に高橋 勝さんを任命しまし
た。また、教育委員を務めていた
太田 悦子さんが9月30日をもつ
て任期満了となり、同市議会9月
定例会において議会の承認を得て
10月1日付けで花輪 妙子さんを
教育委員に任命しました。

◆教育委員会の構成

◇教育長

高橋 勝

・任期：令和2年4月1日

～令和4年9月30日

(1期目)

◇委員 (教育長職務代理者)

佐藤 猛夫

・任期：平成29年10月1日

～令和3年9月30日

(2期目)

◇委員

鈴木 勝

・任期：平成30年10月1日

～令和4年9月30日

(2期目)

◇委員

福成 菜穂子

・任期：令和元年10月1日

～令和5年9月30日

(1期目)

◇委員

花輪 妙子

・任期：令和2年10月1日

～令和6年9月30日

(1期目)



<花輪 妙子委員>



<高橋 勝教育長>

かまいし絆会議 未来への第二步

ラグビーワールドカップ釜石開催に向けた取組みの成果をつなぐ大切な一年となる予定でしたが、コロナウイルス感染症予防対策等により、様々な活動が自粛となり、かまいし絆会議の活動も先が見えない状況でした。しかし、そのようなかにおいてもできることを探し、協力して活動に取り組む絆会議のパワーと行動力は今年度も健在です。

《田中前復興大臣より 感謝状が贈られる》

9月2日(水)に、釜石PI Tで、田中前復興大臣よりかまいし絆会議へ感謝状が贈呈されました。昨年度のラグビーワールドカップに向けた取組みが、復興の大きな力となったというのが理由です。かまいし絆会議を代表して、会長の正木快歩さんと金野怜佳さんが贈呈式に参加し、復興大臣と懇談も行いました。



田中復興大臣と記念撮影

《第2回本会議》

各小中学校の代表28名が集まった第2回目の本会議は、令和2年8月7日(金)に釜石市民ホールTEETOで行われました。

今回の会議では、大きく三つのテーマで話し合いを行いました。一つ目のテーマは「寄贈されたお金の使い方について」です。今年度6月に昨年度のラグビーワールドカップに向けた活動が評価され、かまいし絆会議に寄贈されたお金の使い方について意見を出し合いました。『プランターの購入』『絆会議の旗づくり』『防災に関する取組』『被災地支援への使用』など、様々な考えが発表されました。今後中学校の専門部会を中心に何に使用するかについてさらに話し合いを進めていく予定です。



中学校区ごとの話し合いの様子

二つ目のテーマは「絆の日」の取組みです。昨年9月25日はラグビーワールドカップが行われ、絆会議が鶴住居復興スタジアムで世界に向けて感謝の気持ちを発信した日です。この日を「絆の日」として、各校で児童会・生徒会の活動や地域のための活動を行おうということになりました。また、この日は「ありがとうの手紙」を歌ったり、校内で流したりすることについても考えてもらうことになりました。

三つ目のテーマは「町づくりについての意見交換」です。未来づ

くり委員会や高校生と一緒に、これからの釜石市のまちづくりについて意見交換を行いました。当日は4つのグループにわかれ、それぞれに設定されたテーマで、交流しました。これからの釜石市がどういうまちであってほしいか、そのために自分たちができることは何かについて、主体的に考え、発表することができました。



町づくりについての意見交換の様子

**釜石のGIGA
スクール構想の現状**
子どもたちの学びを
保障するために

教育委員会では一昨年度までに、各小中学校におけるICT機器とネットワーク環境を整備してきました。

一昨年度までに整備したICT機器等

- ・ 教員用タブレット端末 (1人1台)
- ・ 児童生徒用タブレット端末 (1学級分)
- ・ 電子黒板
(普通教室、特別支援学級に各1台)
- ・ 大型モニター (理科室に1台)
- ・ インターネット環境 (Wi-Fi環境)

昨年4月に実施した全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果では、「子どもたちに対する指導において、週1回以上ICT機器の活用をしている」と答えている割合は、県や全国の数値よりも高く、市内小中学校の授業におけるICT機器の活用が進んでいることがうかがえます。

このように、教育委員会では子どもたちのオンライン環境下での教育のICT化を推し進めてきましたが、昨年の12月、文部科学省は、GIGAスクール構想という事業を立ち上げました。

GIGAスクール構想とは、「児童生徒向け1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワーク環境を

一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」のことです。昨年12月現在では、5年間で徐々に環境整備を行っていく計画でした。

しかし、今年の3月、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国的に学校等の臨時休業が実施され、子どもたちは長期にわたって自宅待機を余儀なくされました。子どもたちが授業を受けられない状況、子どもたちの学びをいかに保証していくかが課題となりました。

文部科学省はタブレット端末やネットワーク環境を整えることにより、オンライン授業等を可能にし、子どもたちの「学習の保障」を行っていくことを盛り込み、計画を前倒し、来年度までに児童生徒向け1人1台端末の配備とオンライン環境の整備を行うことを決定しました。

教育委員会でも、来年度からの運用に向け、市内小中学校、全児童生徒1人1台のタブレット端末を整備し、同時に、大容量の通信ネットワーク環境を整える準備を

進めています。

配備する児童生徒用のタブレット端末には、現在配備済みのタブレットが利用できる機能の他、ドリル学習ソフトを入れ、朝活動や授業中、家庭学習等でも活用できるように整備する予定です。また、1人1台タブレット配備により、オンラインでの調べ学習や、関連する動画や画像の閲覧など、授業のあらゆる場面に応じて必要な情報をスムーズに手に入れられるようになります。さらに、災害や学校の臨時休業時には、オンライン授業や、オンラインによる個別面談等も可能になる予定です。

教育委員会ではICT、機器の使用についての研修会や、授業内における有効な活用方法を各学校と協力体制を維持し、子どもたちの学びを保障していきます。

「共に学び、共に育つ」

教育の推進

インクルーシブ

教育システムの

理解啓発に向けて

岩手県教育委員会では、すべての人が互いを尊重し、心豊かに主体的に生活することのできる地域

づくりを目指し、「共に学び、共に育つ教育」を推進しています。

特別支援教育とは、「障がいのある子どもたちが自立し社会参加するために必要な力を培うため、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」です。また、「インクルーシブ教育システムとは、障がいのある子どもと障がいのない子どもが同じ場で共に学ぶこと」を追求します。

教育委員会では、国立特別支援教育総合研究所の指導を受けながら、このインクルーシブ教育の推進について研究を進めており、三年目となりました。

今年度は、研究の重点の一つに「校内研修の充実」を位置付け、研究協力校として小学校四校、中学校二校を指定し、「特別支援教育の視点による児童生徒理解の充実について」二回の研修会を実施しました。

【一回目の研修会】

困難さが生じる状態を疑似体験し、それが日常的に継続することを想像すること（子どもの視点に

立つこと）を通して、特別支援教育の視点から、児童生徒理解を深めることがねらいです。一回目の研修により、支援が必要だと感じていた子どもについてはさらに支援の必要性と方向性が明確になり、これまで困難さを抱えていることに気付かなかった子どもについて気付き、校内の全教職員で今後の支援について検討することにつながりました。



「手先の不器用さ」についての疑似体験

一回目の研修を終え、身に付けた知識を授業や日常の関わり場面において、実際の子どもとの姿と重ね合わせながら二回目の研修まで実態把握をしました。実際の子どもを重ねて困難さに「気付く」ことが重要であり、その「気付く」により児童生徒理解がさらに深まりました。

【二回目の研修会】

実際に指導している児童生徒の姿について教員同士で同じ視点で情報共有を行い、日常の実態把握や児童生徒との関わりの中で話すことをねらいとした協議を行いました。

全校体制で「特別支援教育の視点」を意識して子どもたちと関わることで、情報共有を行ったり、よりよい支援の在り方について考えたりすることができるようになりました。



二回目の研修 協議の様子

今後も、全ての人々が互いを尊重し、心豊かに主体的に生活することができる共生社会の実現を目指し、十年後の釜石市が共に学び、共に生き抜く社会となるよう取り組んでまいります。

令和2年度
学校給食における
食育への取組み

学校給食センターでは、児童生徒が地域の食文化や産業、生産、流通、消費など食料事情等について理解することができるよう、釜石市産の農作物を学校給食へ積極的に取り入れています。また、献立予定表や食育だより等を通して、地場産物の種類をお知らせしたり、生産者の思いや願いを紹介したりしています。食事という実体験を通して食に関する知識理解、関心を深めることができるのが、学校給食の良さです。今後も、自分たちが住んでいる地域への愛着を育むとともに、生産者の工夫や努力について考え、地域の産業等の理解を深めるほか、食料輸送にかかる環境問題、食料自給率などについても考える機会となるよう、関係機関と連携しながら地場産物の活用を積極的に推進していきます。



釜石産ジャガイモ使用の「秋色カレー」

『食物アレルギーへの対応について』

学校給食センターでは、令和2年度2学期より、乳及び卵アレルギーに限定して、食物アレルギー対応食の提供を開始しました。主食のパンについては、各種アレルギーに対応し、食べられない児童生徒には代わりにご飯を提供しています。食物アレルギー対応食は専用のアレルギー調理室内で調理を行い、専用の個別容器に配膳することで、アレルギーの混入を未然に防止しています。また、学校との連携を密にして、誤配食が起きないように複数人で確認作業を行っています。今後も、食物アレルギーを有する児童生徒に配慮し、安全でおいしい食物アレルギー対応食の提供に努めていきます。



アレルギー調理室の様子

令和2年度
甲子中学校
鉄づくり体験

甲子中学校の1年生は座学や、体験等の様々な方法で、「鉄のまち釜石」について学ぶ総合的な学習を行っています。郷土の歴史や、先人たちの技術の継承を「鉄」を通して学ぶ釜石ならではの郷土学習です。甲子中学校で行われた鉄づくり体験の様子を紹介します。

令和2年9月17日（木）、18日（金）の2日間にわたり、甲子中学校の1年生42人が鉄づくり体験に挑みました。

鉄づくり体験は、耐火レンガを組み、高炉の形を模した製鉄炉を作り、たたら製鉄の方法で、鉄を作る体験です。原料となる鉄鉱石

は釜石で産出されたものを使用しました。

鉄づくり体験では、炉の構築方法を写真と図面を基に、生徒自身が考えて作りました。また、時間配分や炭割り等の仕事配分も生徒に任せました。これらは各班で選ばれたリーダーと副リーダーが中心となつて行われました。リーダーたちは、仲間をまとめる責任感を、班員は、リーダーたちを支える大切さを学びました。

これはかつて、外国の書物から製鉄方法を模索し、釜石の人々と鉄づくりを成功させた大島高任の鉄づくりを疑似体験しているものです。

最終的には、全ての班がしっかりとした炉を組み上げ、ノロ出し（不純物の排出）とケラ（鉄の塊）の生成に成功しています。チームとしての団結力が成功の大きな鍵となったようです。

なお、釜石東中学校の1年生と釜石小学校の5年生も、郷土学習の一環として7月と11月に鉄づくり体験を実施しています。

です。

正副リーダーが主体的に動く班は時間をかけて精査し、しっかりとした炉を作り上げました。対照的に班員が主体的に動く班は、作業は早いものの、所々で小さなミスが生じていました。しかし、ミスの判明から悪くなったチームの雰囲気、皆で歌を歌って団結し、築炉の完成に導く解決法を見せてくれました。

最終的には、全ての班がしっかりとした炉を組み上げ、ノロ出し（不純物の排出）とケラ（鉄の塊）の生成に成功しています。チームとしての団結力が成功の大きな鍵となったようです。

なお、釜石東中学校の1年生と釜石小学校の5年生も、郷土学習の一環として7月と11月に鉄づくり体験を実施しています。



協力して炉を組み上げます



鉄鉱石と木炭を投入します



ノロ出しに成功しました